



# 中央アマゾン保全地域群

# Central Amazon Conservation Complex



アマゾンの朝焼け



ソリモンエス川とネグロ川の2色の水が混じり合わず10kmも併流する合流地点



コンゴウインコ Scarlet Macaw



アマゾンの富を支えた天然ゴム。しかし19世紀末、英国により東南アジアに種が運ばれアマゾンのゴム産業は壊滅。



この水面が毎秒10m以上も上下



ワニ (アリゲーター科カイマン(Caiman)) は多数生息



24種もいるピラニアは本来臆病で食べるとおいしい。



水位の上下に対応できる住宅



河口から1500km入ってもタンカーが航行

**中央アマゾン保全地域群 Central Amazon Conservation Complex** ブラジル連邦共和国 República Federativa do Brasil 自然遺産 Natural 2000年登録

**【概要】** 世界最大の流域面積をもつアマゾン川流域にある総面積23000平方キロのジャウー国立公園 Parque Nacional do Jaú を中心にした自然遺産。アマゾン川 Rio Amazonas は毎秒20万トン(全世界の川の流量の1/4)の流量を持ち、オーストラリア大陸の面積に匹敵する705万km<sup>2</sup>の流域面積を持つ。動植物も非常に多彩でアマゾンカワイルカ、ピラルク、ピラニアだけでなく、サメ・ノコギリザメ・メカジキなど250種の哺乳類、1800種の鳥類、100万種以上の昆虫が生息していると言われている。

**【アクセス】** 圧倒的スケールの大河と、地球の酸素の1/3を供給していると言われる(ただしこれは誤りでアマゾンの森林は極相と呼ばれる均衡状態にあり大気成分に影響を与えてはいない)熱帯雨林は、あまりにも圧倒的すぎて外国人が気軽に立ち寄れる場所ではない。そもそも中心となるジャウー国立公園の立ち入りは政府の許可が必要。そこで「アマゾンを訪れたい」という外国人旅行者の多くは、まず中流の中心都市マナウスに行き、そこから各ロッジ(ホテル)主催の数日間のツアーに参加するのが一般的。また、河としてのクルーズなどを楽しむなら河口に近い大都市ベレン発のフェリーの船旅もある。

**【訪れた感想】** あまりにも広大なアマゾン。その自然は圧倒的すぎて、旅行者が気軽に訪れられるルートは限られている。よって自分もマナウス発のロッジのツアーに参加した。自然に配慮されたロッジを基地としたツアーは様々なアクティビティがあり、しかも英語での解説も可と外国人にも嬉しい内容だったが2泊で一人8万円と高額。内容は充実していたが、体験できたのはアマゾンのごく一部をだけのような気がした。「壮大過ぎて外国人が数日滞在した程度では理解することができない世界」と感じた。